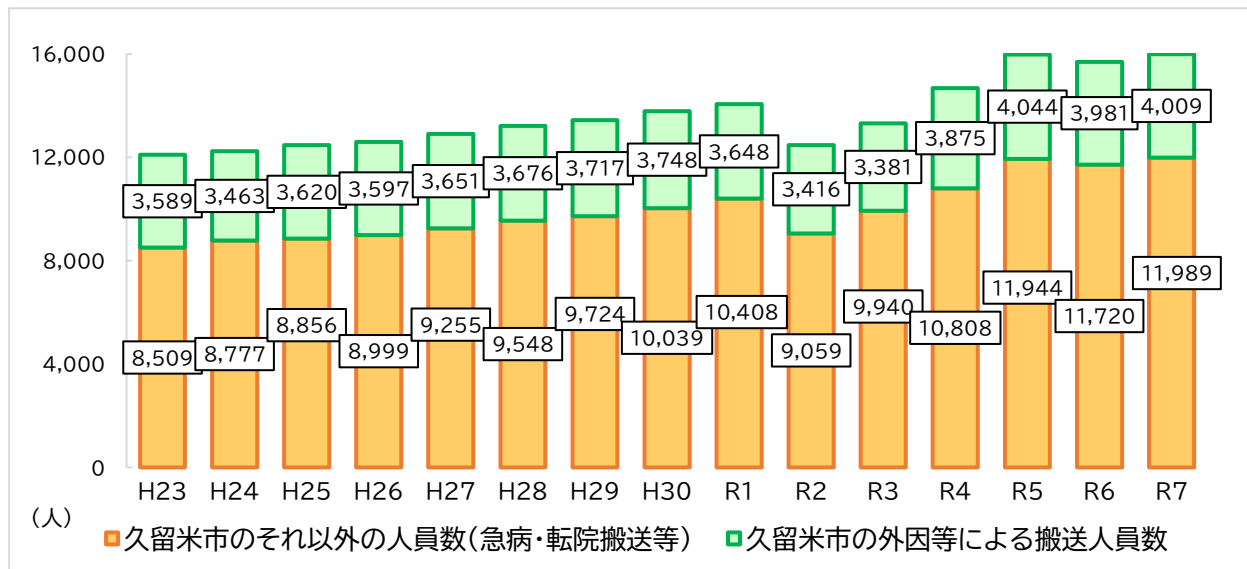


4 救急搬送に関するデータ(久留米広域消防本部救急搬送データ)

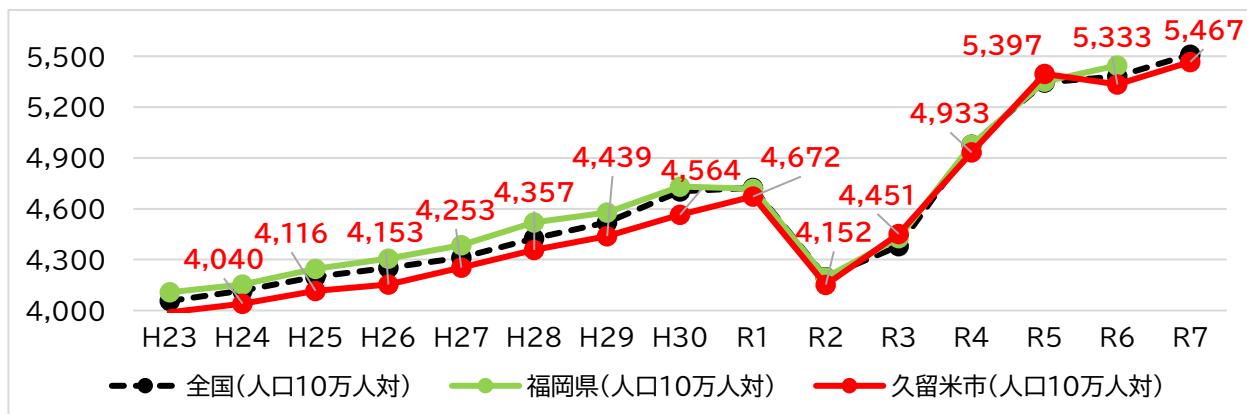
(1) [図 4-1]救急搬送人員数

救急搬送人員数全体及びけがや事故による救急搬送人員数は増加傾向にある。

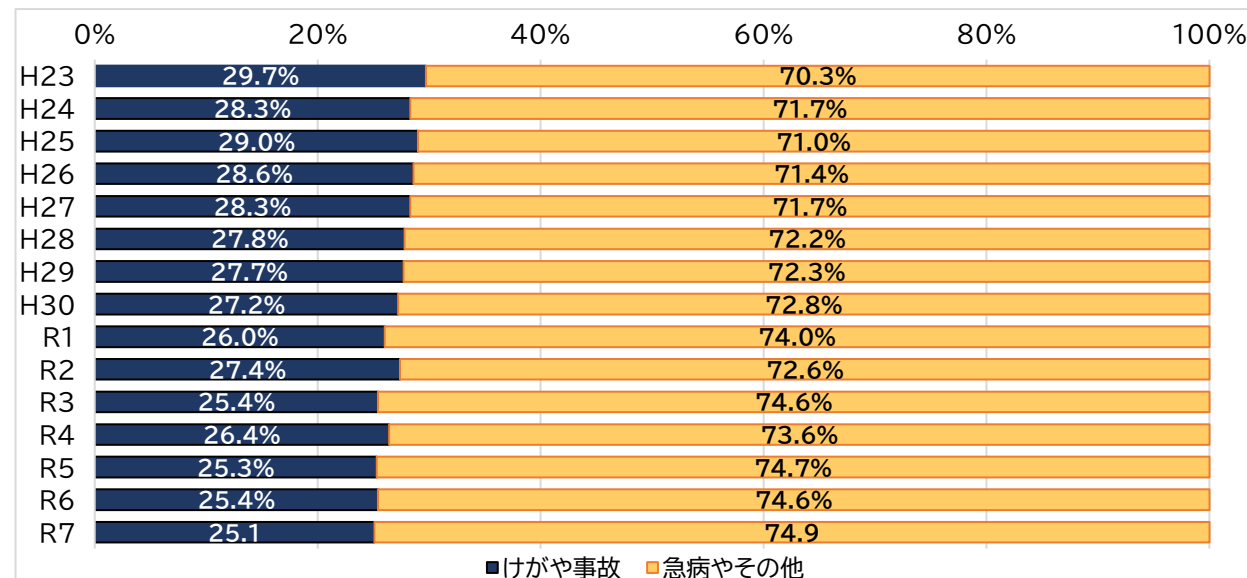


(2) [図 4-2]人口 10 万人当たりの救急搬送人員数 (外因及び急病・転院搬送等含む)

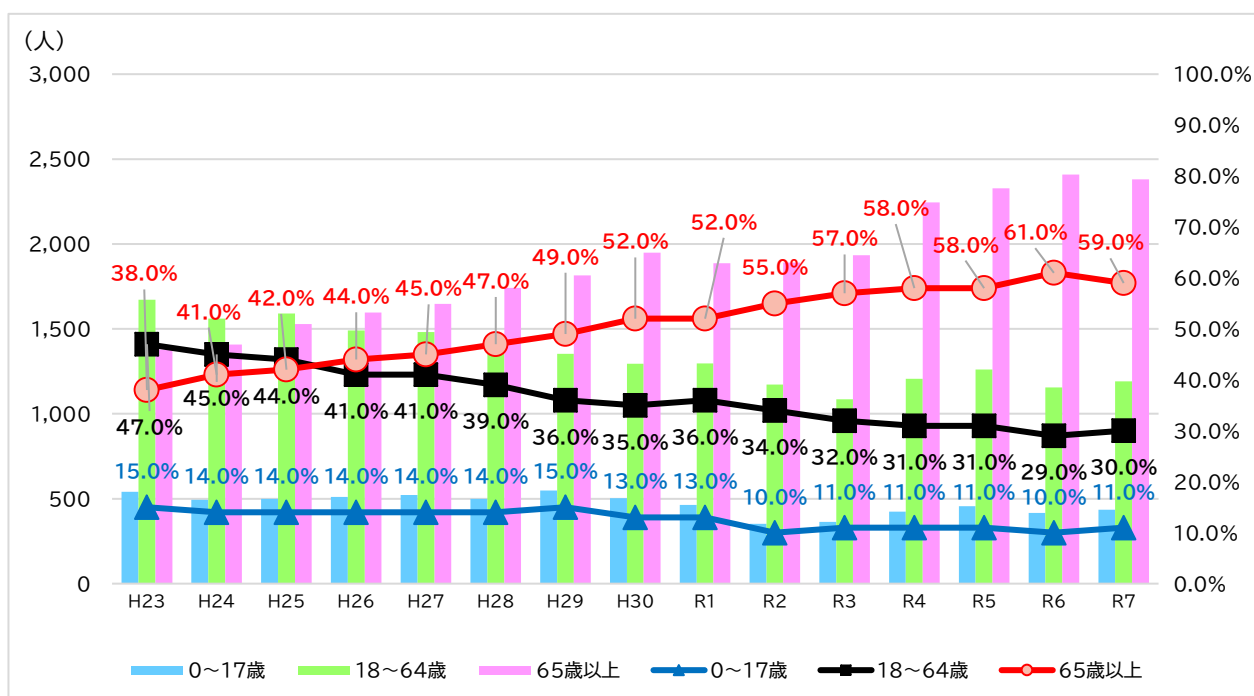
国や福岡県の値と同様に推移している。(※県は令和 6 年までのデータ)



(3) [図 4-3]緊急搬送に占める外因(けがや事故)による搬送割合

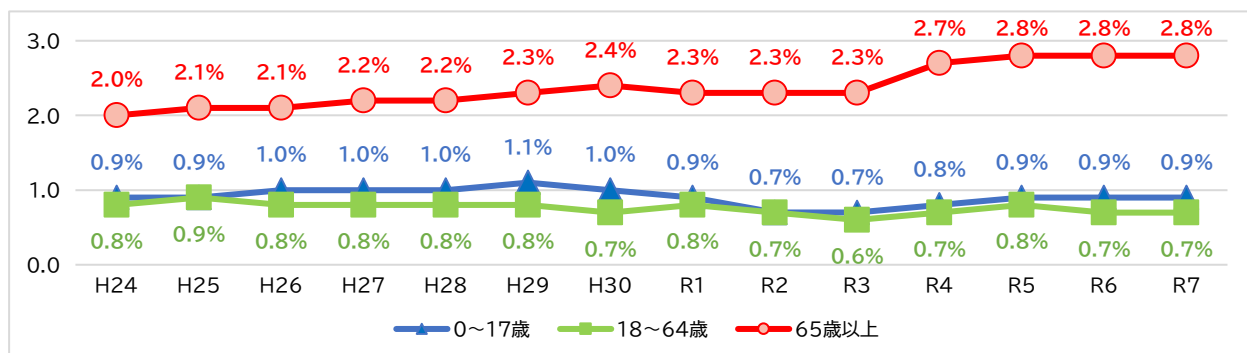


(4) [図 4-4]年齢層別外因による救急搬送人員数



(5) [図 4-5]年齢層別外因による救急搬送の発生率

65 歳以上の高齢者の救急搬送の発生率は、令和 4 年以降、高推移となっている。

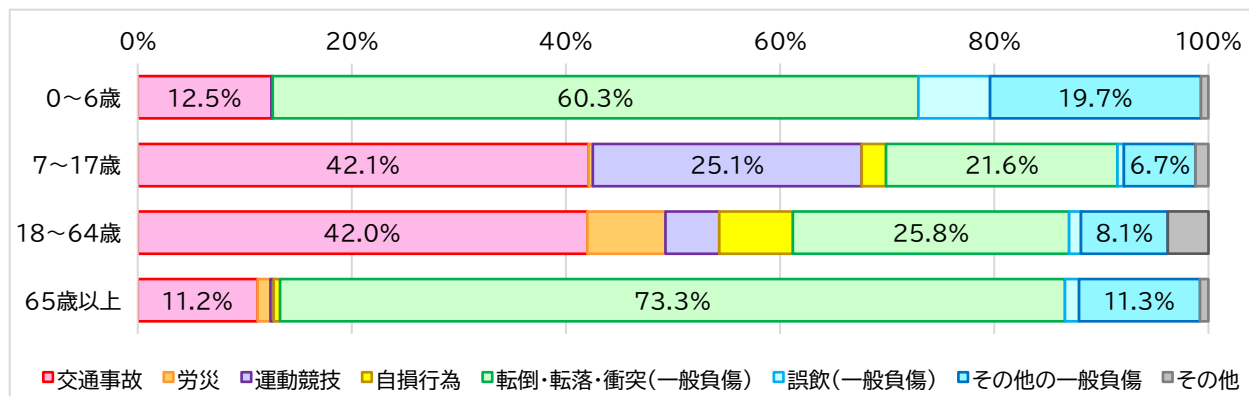


(6) [図 4-6]年齢層ごとの受傷原因 (R3~R7)

7~17 歳と 18~64 歳では、「交通事故」の占める割合が 40%以上と高くなっています。

また、0~6 歳と 65 歳以上では、「転倒・転落」の占める割合が高くなっています。

さらに特徴として、0~6 歳では「誤飲」、7~17 歳では「運動中のけが」、18~64 歳では「労働災害」や「自損行為」が他の年齢層と比較して高くなっています。

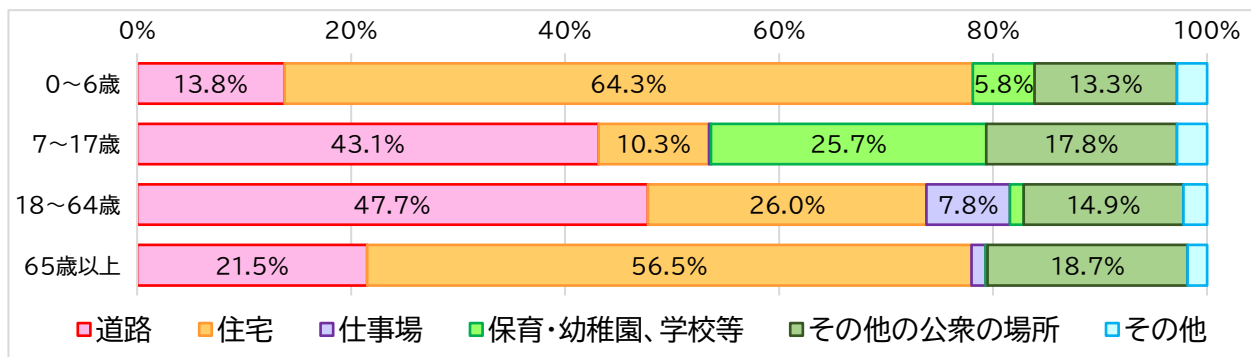


(7) [図 4-7]年齢層ごとの受傷場所 (R3～R7)

0～6 歳と 65 歳以上では、「住宅」の占める割合が約 60%と高くなっています。

また、7～64 歳では、「道路」の占める割合が約 50%と高くなっています。さらに特徴として、

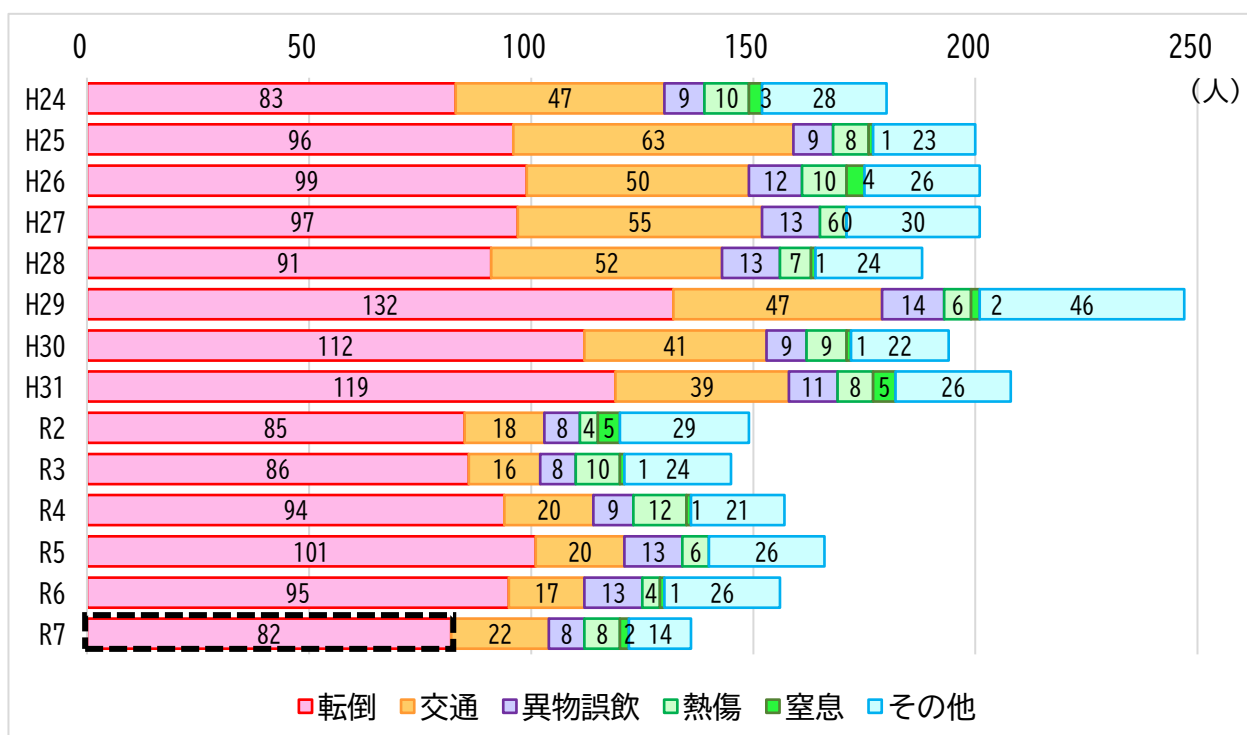
7～17 歳では、「学校等」の占める割合が他の年齢層と比較して高くなっています。



(8) 年齢層ごとの事故種別内訳

①[図 4-8]乳幼児 (0～6 歳)

「転倒」はコロナ禍で減少したが、その後増加し、再度減少している。

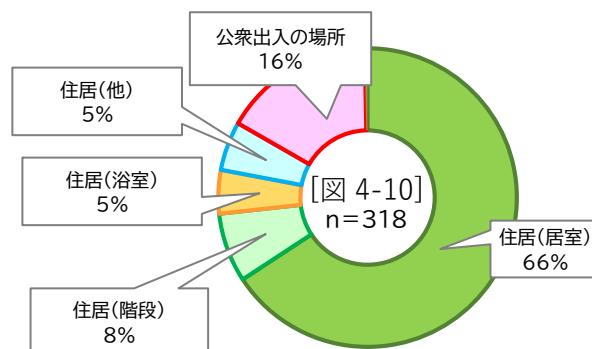
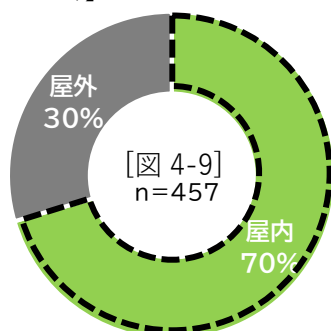


■乳幼児の転倒場所の割合 (R3～7 年の合計)

■屋内の場所 (※R3～7 年の合計)

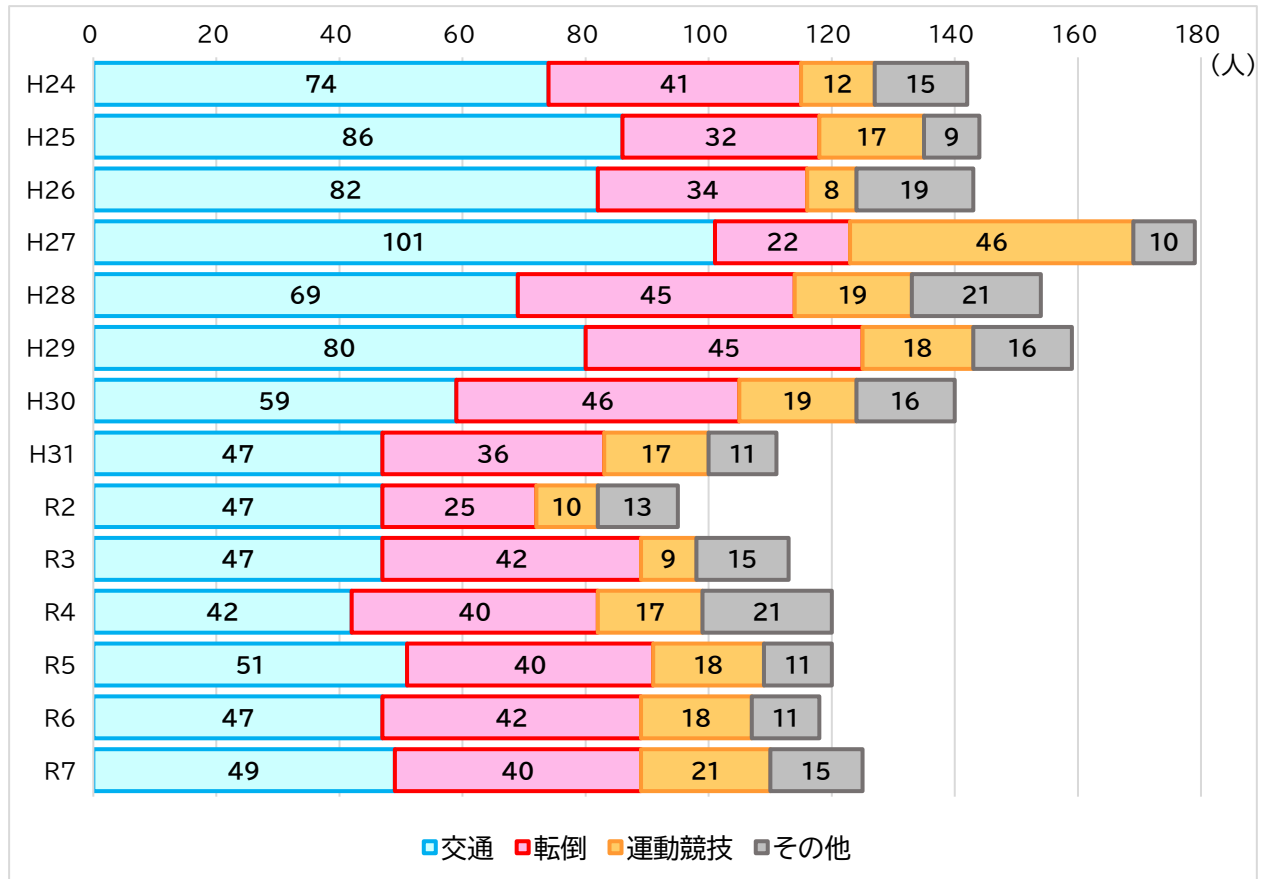
乳幼児の転倒場所の多くは、屋内である。また、屋内のうち、約 7 割が居室で発生している。

【屋内・屋外】

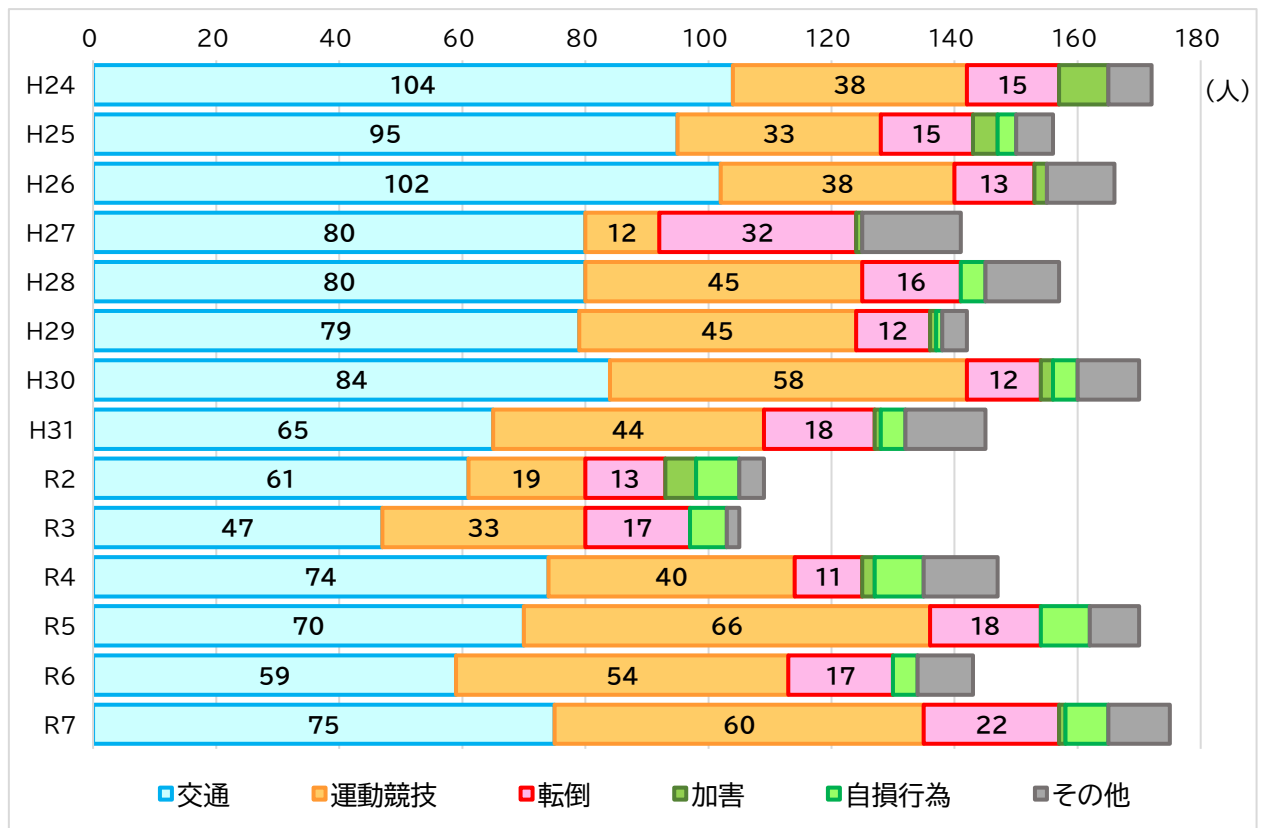


②[図 4-13]小学生（7～12 歳）

コロナ禍直後、搬送人員数は増加傾向にあったが、ほぼ同じ搬送人員を保っている。

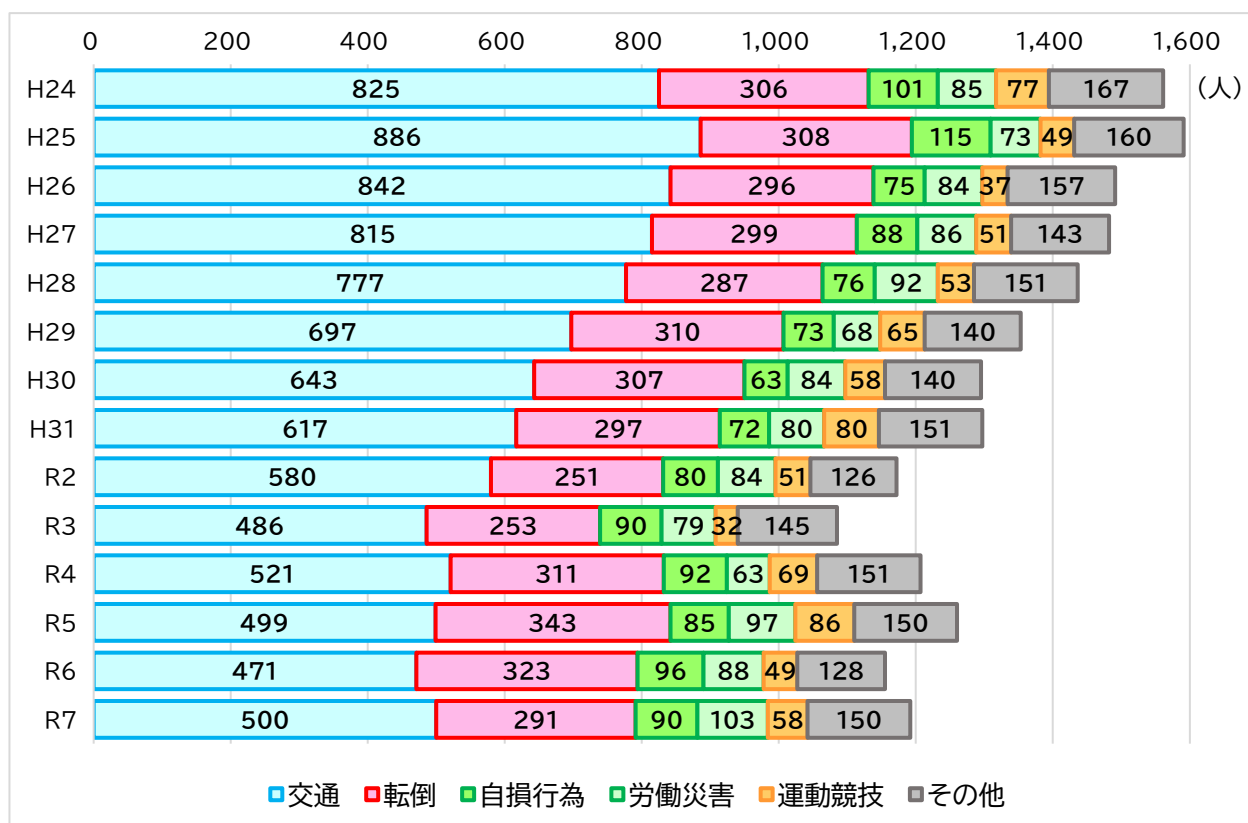


③[図 4-14]中高生（13～17 歳）



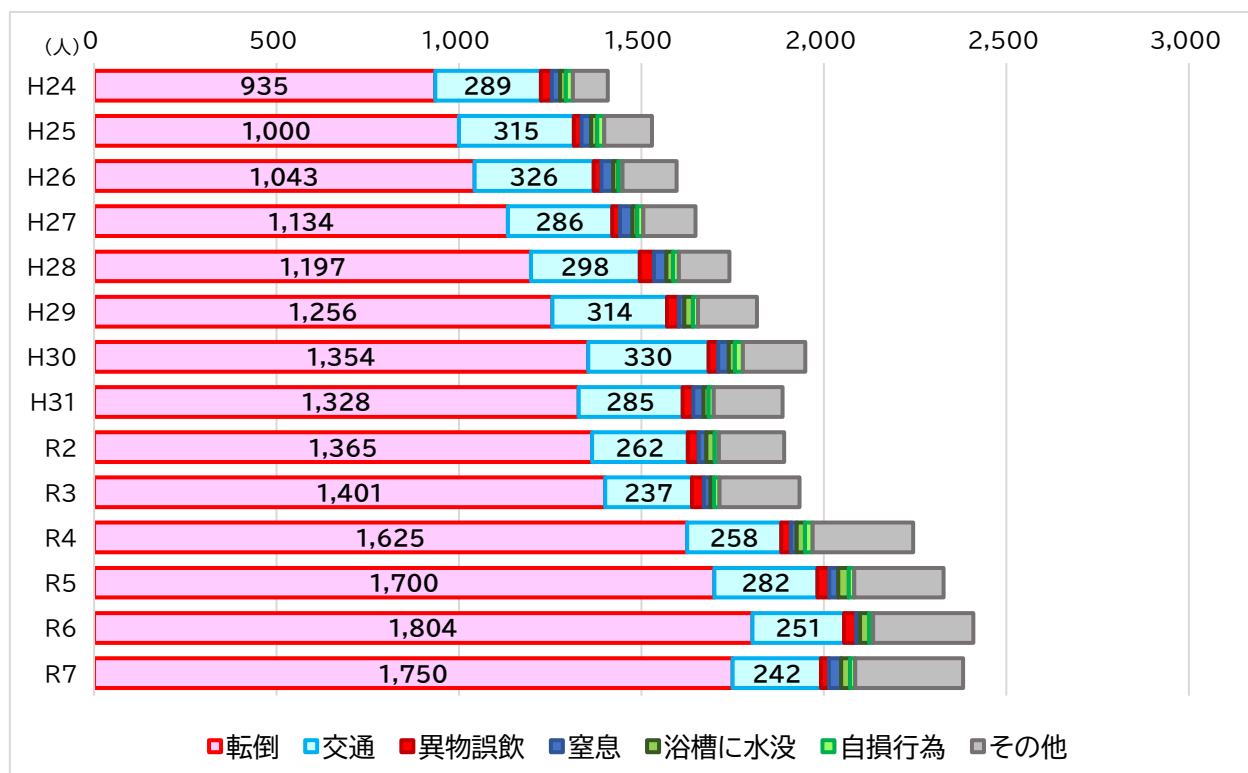
④[図 4-15]成人（18～64 歳）

最も多い交通事故の搬送数に連動し、搬送数全体が増減している。

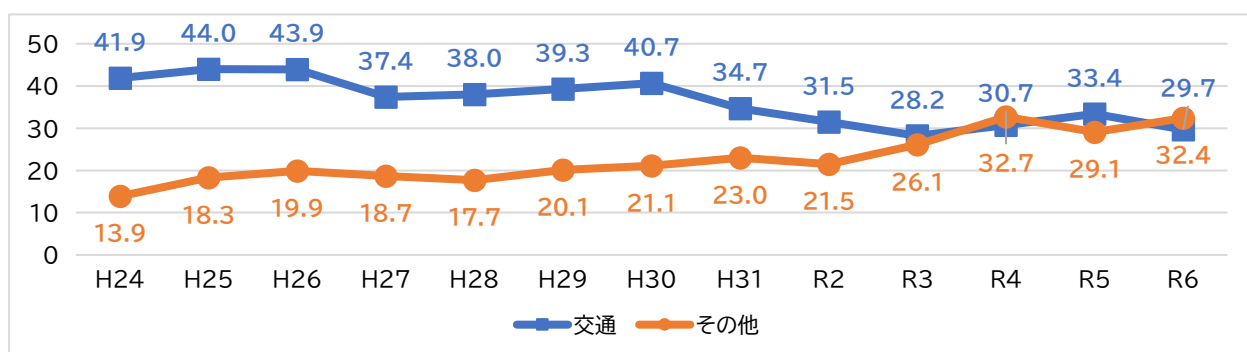
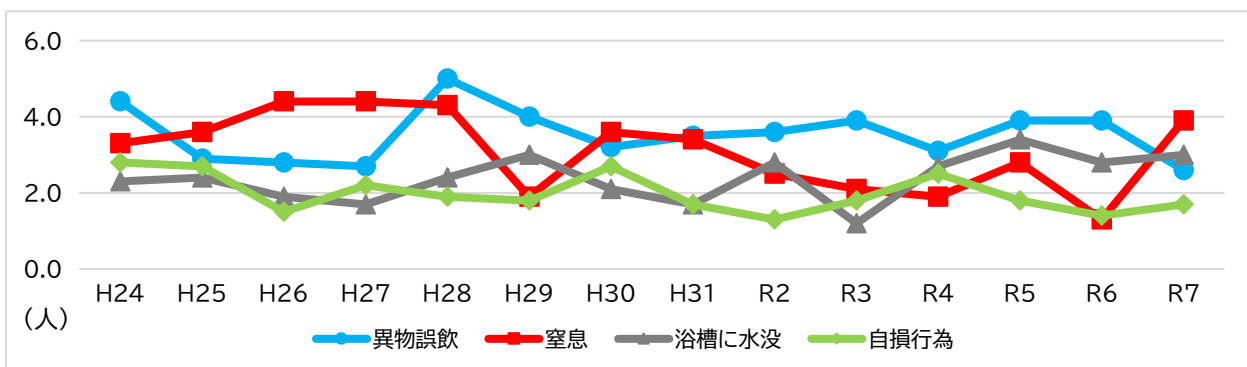
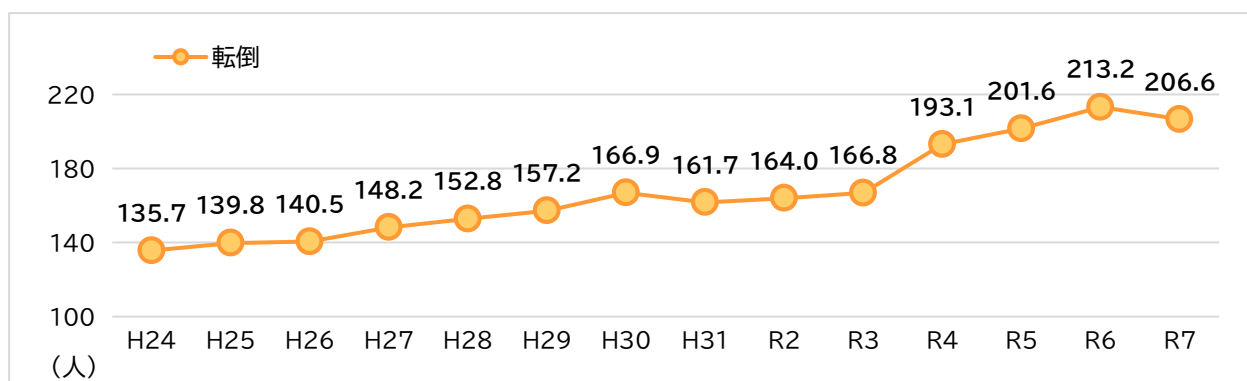


⑤[図 4-16]高齢者（65 歳以上）

救急搬送人員数は増加傾向にある。浴槽での水没を防ぐため、令和 6 年度より医師会と連携してポスターを掲示するなど、ヒートショックの防止について啓発を行った。今後、その効果について注視していく。

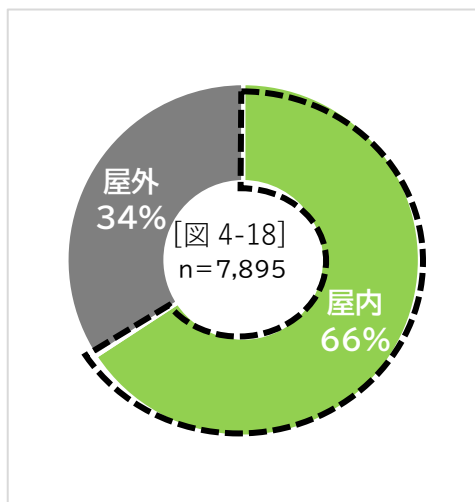


■[図 4-17]高齢者人口 1 万人当たりの事故種別の救急搬送人員数

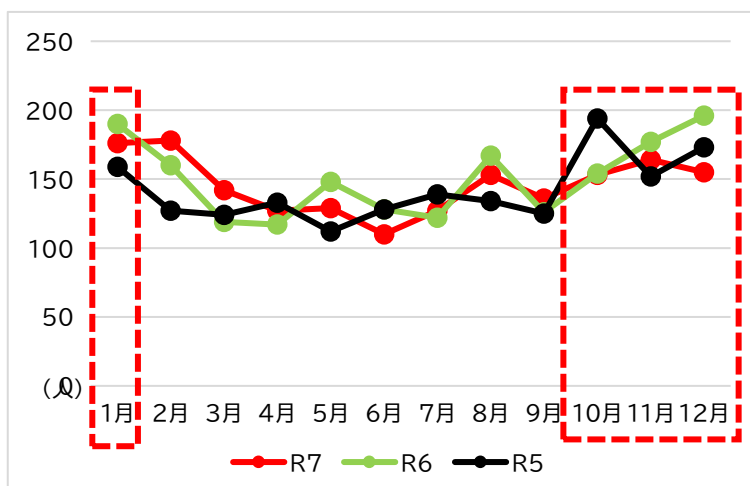


また、10 月から 1 月にかけて転倒による搬送人員数が多くなる。

■[図 4-18]高齢者の転倒場所の割合 (R3～7 年の合計)

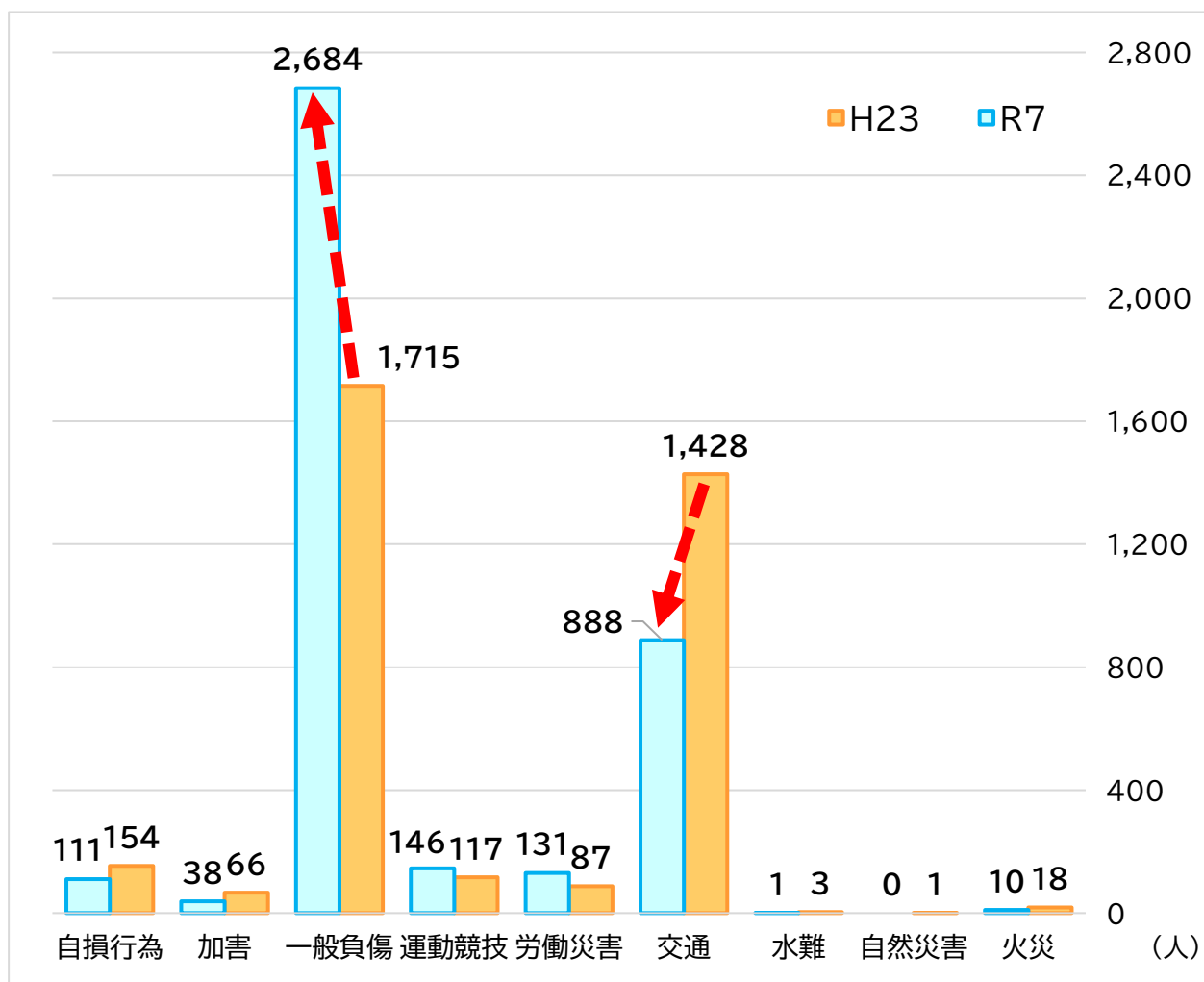


■[図 4-19]月ごとの高齢者の転倒による搬送人員数



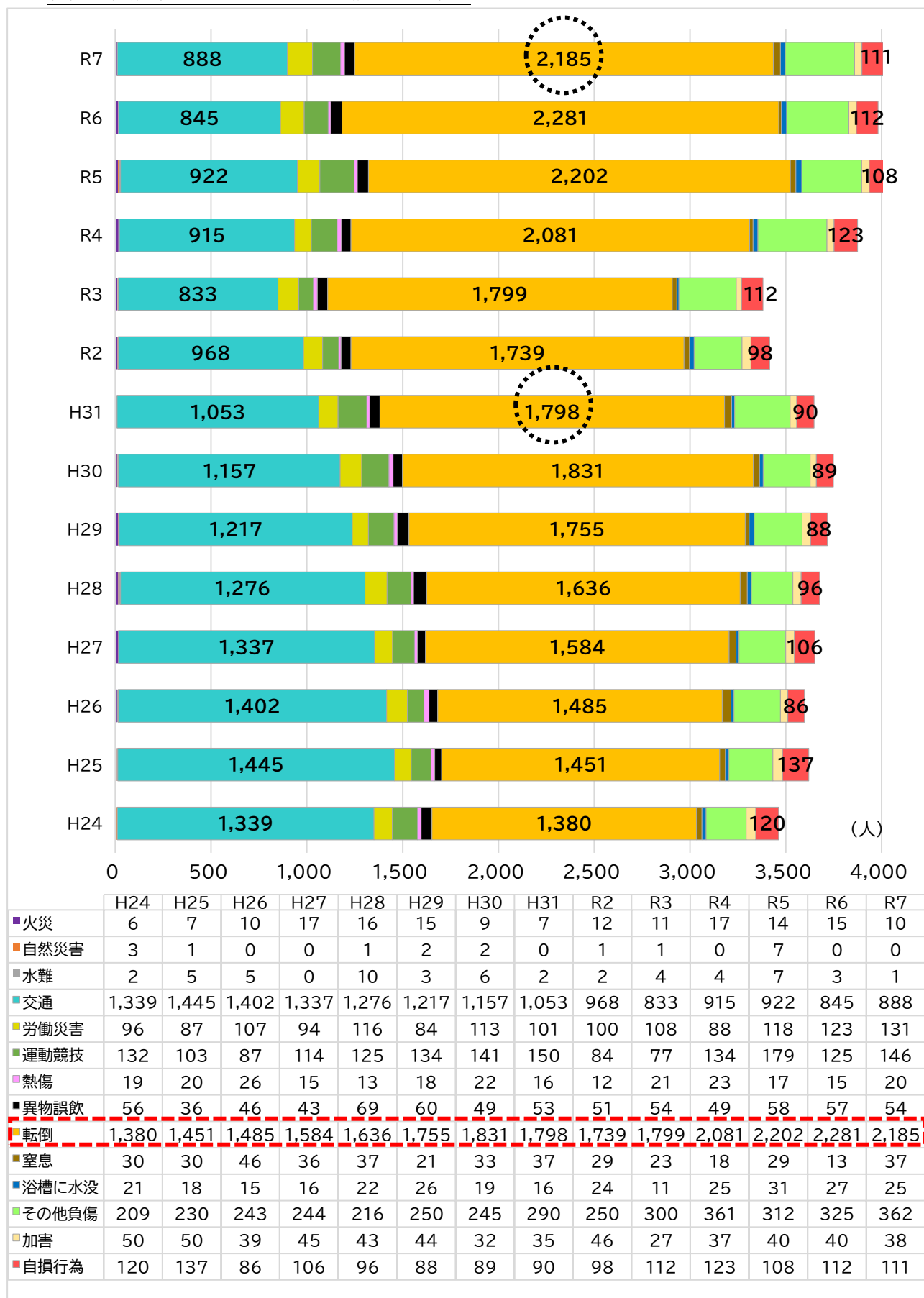
(9) [図 4-20]事故種別ごとの搬送人数（全年齢）

事故種別を見ると、SC の取組を始めた H23 年と同様に、現在も「交通事故」と「一般負傷」が圧倒的に多いが、交通事故による搬送は減少し、一般負傷は大幅に増加している。



(10) [図 4-21]事故種別ごとの搬送数（全年齢）

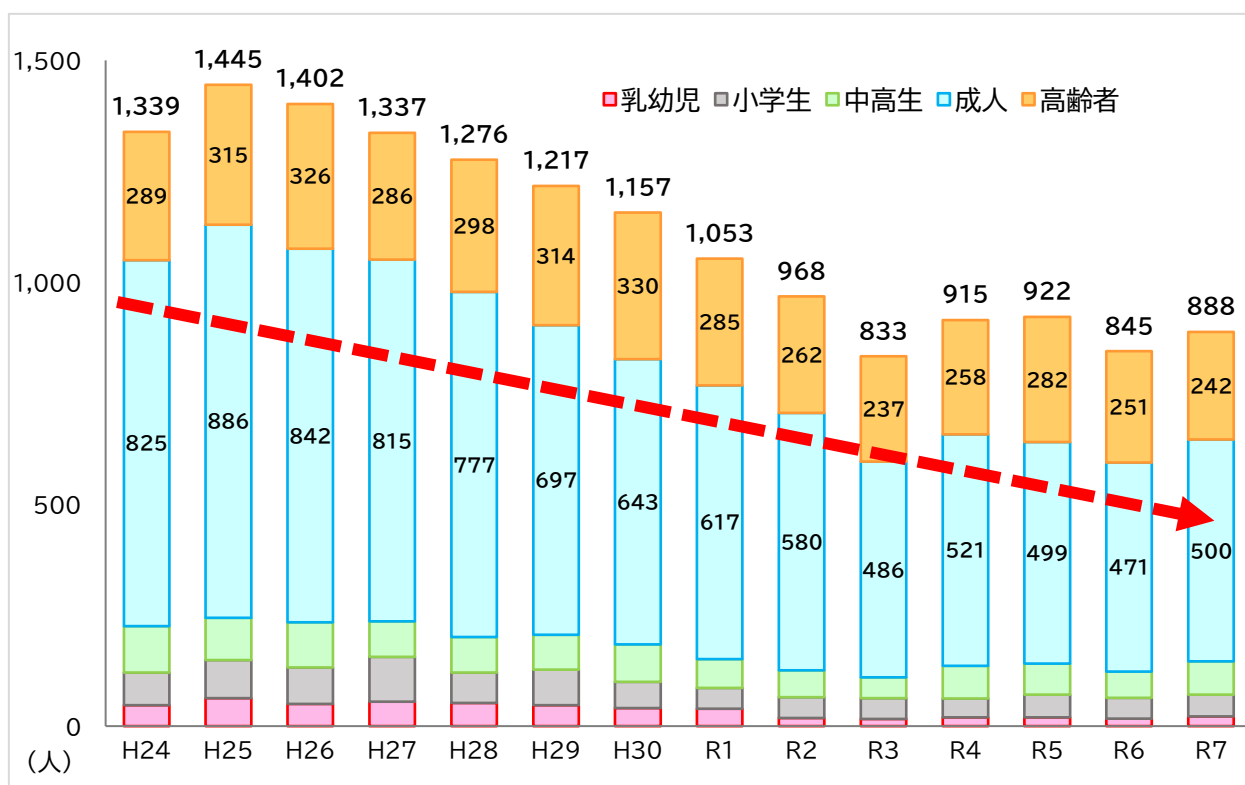
転倒・転落等による搬送がコロナ禍前より増加している。



(11) 事故種別ごとの年齢別内訳

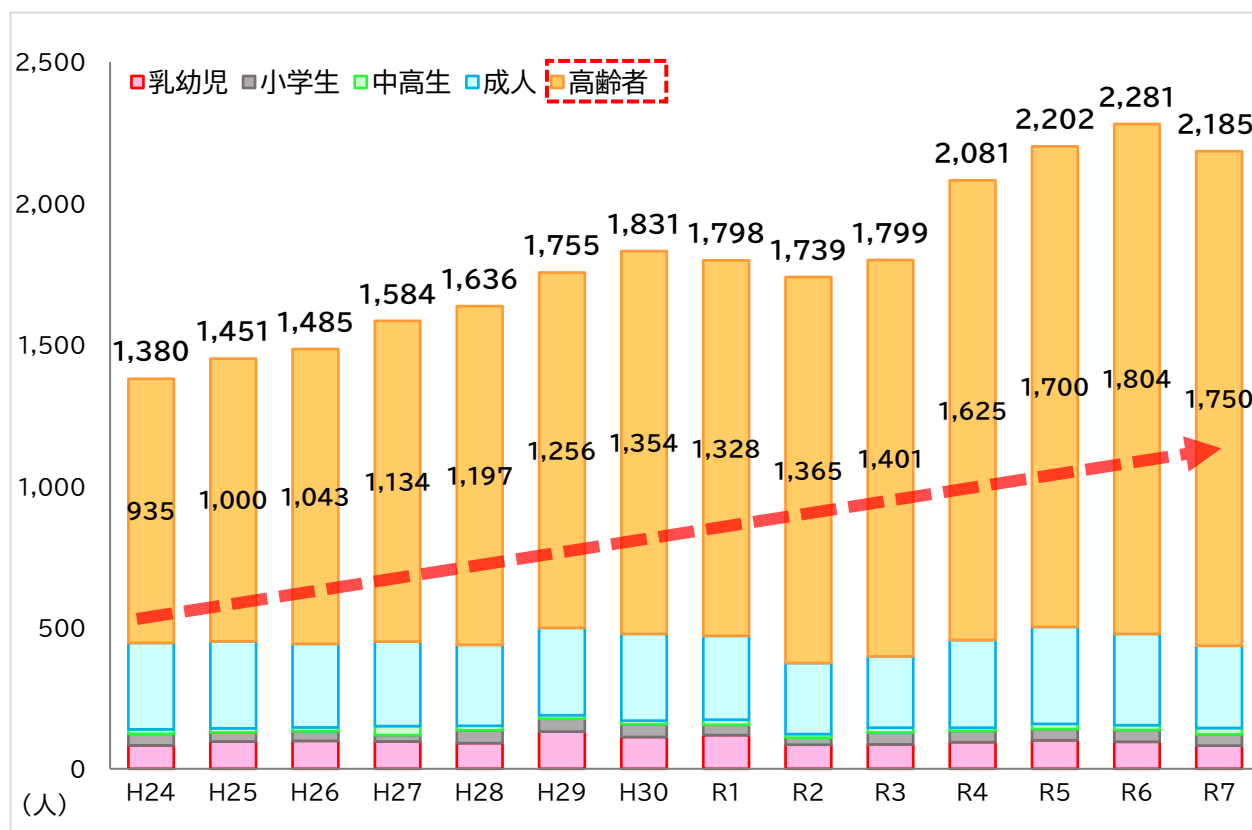
①[図 4-22]交通事故

交通事故による救急搬送人員数は、長期的に減少傾向にある。



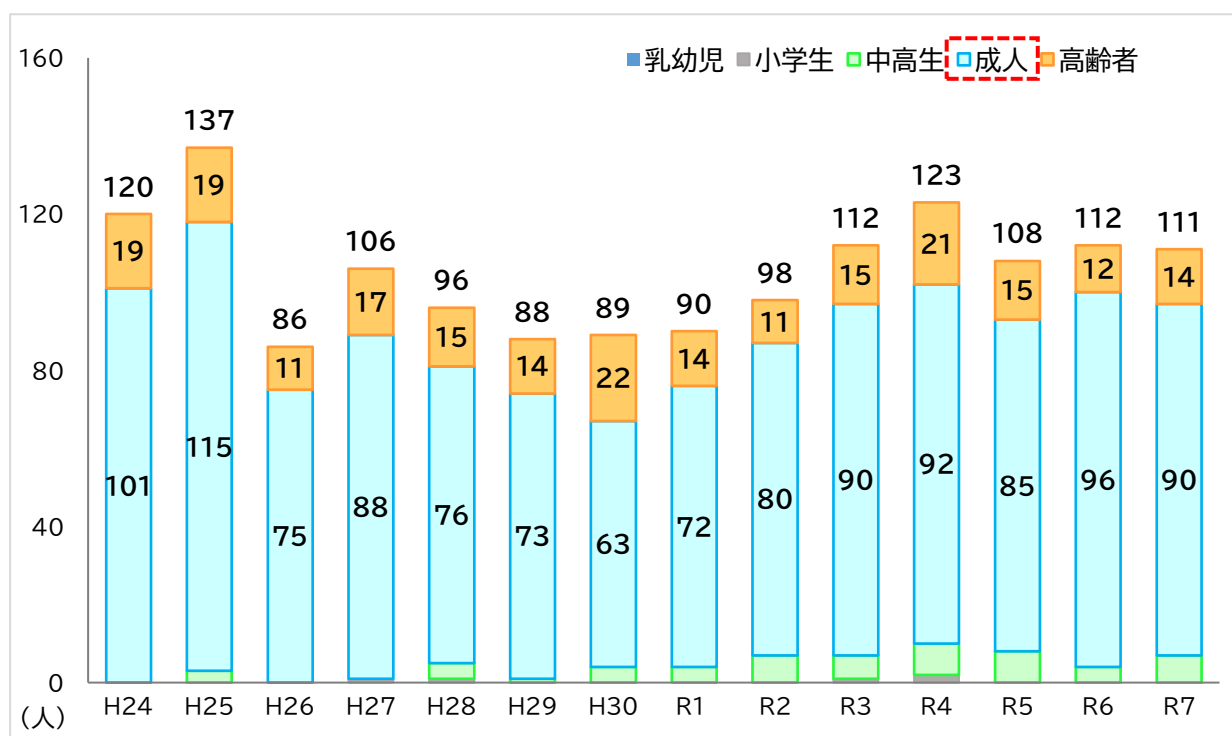
②[図 4-23]転倒

転倒による搬送人員数は、長期的に高齢者が増加傾向にある。



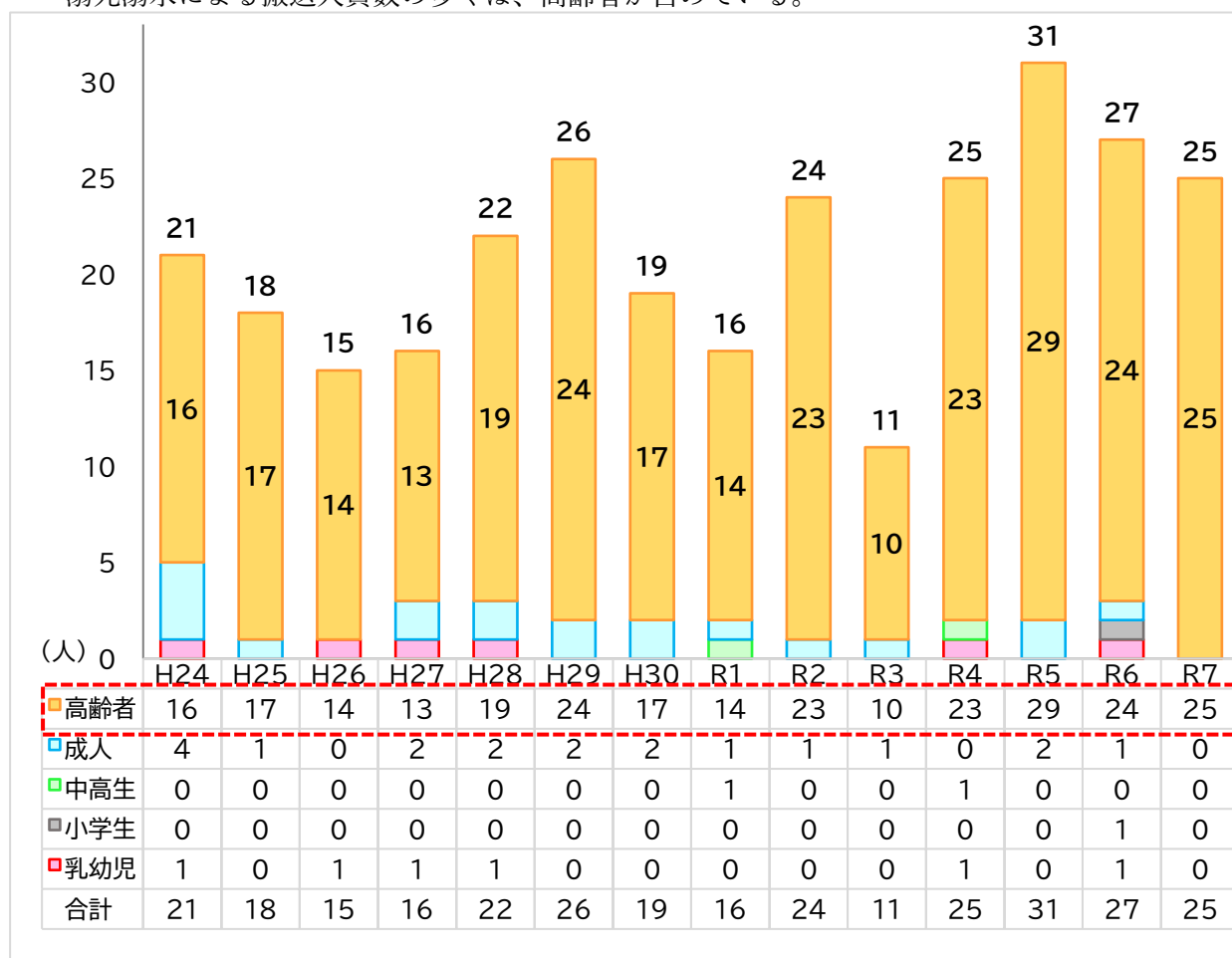
③[図 4-24]自損行為

自損行為による搬送人員数の約 8 割は成人（18～64 歳）である。



③[図 4-25]溺死・溺水

溺死溺水による搬送人員数の多くは、高齢者が占めている。



(12) 発生場所「浴室（シャワー室、洗面所を含む）」の搬送人員数（65歳以上）

※火災、自損行為は除く ※外因によるものだけでなく急病等も含む

■[図 4-26]月毎の浴室からの高齢者の搬送人員数（R5～R7）

冬は搬送人員数が多くなる。

